

フォーラムは、同志社大学政策学部教授をコーディネーターに迎え、登別市市民自治推進委員会会長と社団法人登別室蘭青年会議所副理事長、グループ提言で受賞したチームの代表5人をパネリストに行われました。ここでは、その内容の一部を紹介いたします。



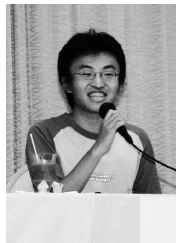
同志社大学政策部教授 真山 達志さん



登別市市民自治推進委員会 会長 田中 寛志さん



登別室蘭青年会議所副理事長 和泉 薫さん



同志社大学大学院今川ゼミ代表 増田 知也さん

真山さん 今回受賞されたチームは、観光よりも、少子高齢化や地域社会を問題にしたチームが受賞率が高かった気がします。こうした問題に取り組んだ星賀さんは、登別の地域社会についてどのように感じましたか。星賀さん 登別は社会福祉協議会が中心となって、高齢者の支援事業にすぐ熱心に取り組まれているという印象を受けました。それと同時に、自分から何か事業を起こせるような主体的に行動できる場所がもう少し必要な印象を受けました。

田中さん 子育てに関しては、他市と比べても遜色のない環境があり、自然環境についても非常に良いと思います。ただ、子どもを安心して産めるまちづくりについて、同時に考えていく必要があると思います。真山さん そういった少子高齢社会を支えていく自治の基本形として、自治基本条例を中心に検討された大空さんは、条例が市民に浸透した状態というの、どういう状態を理想として考えますか。大空さん 『まちづくり基本条例』の理念を、市民自身が理解し、それに対して考えることができれば、十分に浸透されたと言えると思います。そういった市民の相互理解を深めるような仕組みが必要だと思えます。真山さん 若者の自治やまちづくりに対する思いについて、実際の活動の状況はどうですか。和泉さん 青年会議所では、現在、市内の高校生を対象に、いろいろな事業を行っています。実際に自分で汗を流して初めて意識が変わっていくものだと思います。先ほどの市民自治の条例についても、やはり知ってもらうためには関わることが大切だと思います。真山さん もうひとつのメインテーマである観光や温泉について、関さんの提案をこれから具体化するためには、何をしていくべきですか。関さん わたしたちの提言は、継続



真山さん 今回の全国大学政策フォーラムでは、12のチームが今の『のぼりべつに必要なもの』について考え、さまざまな提言をしていただきました。これらの提言の中には、『市民や地域が一体となって』というキーワードが多くチームから挙げられていました。これからの登別が元気で魅力のあるまちになるためには、市民や地域が一体となって『まちづくり』に取り組むことが一番大切ではないでしょうか。

増田さん わたしたちの提案は、何か新しい施設を作らないと実現できないわけではありません。市民の方の問題意識はものすごく前向きでしたし、期待を込めて今回提案させていただきました。真山さん 同様に観光や温泉の問題で最優秀賞を受賞された増田さんは、実際に登別温泉の経営形態や組織構造を考えたときに、新しいタイプのツーリズムが実現化できると思いますか。増田さん わたしたちの提案は、何か新しい施設を作らないと実現できないわけではありません。市民の方の問題意識はものすごく前向きでしたし、期待を込めて今回提案させていただきました。



埼玉大学 齋藤ゼミA 関 佳奈子さん



埼玉大学 齋藤ゼミB 齋藤 幸雄さん



同志社大学 今川ゼミ 大空 正弘さん



立教大学 原田ゼミ 星賀 さとみさん